

新鮮凍結血漿 (FFP) の適正使用について

<使用目的>

- 凝固因子欠乏による出血傾向の是正
- 血漿因子の補充 (血栓性血小板減少性紫斑病、溶血性尿毒症症候群)

<適 応>

- 原則として投与前にPT・APTT・フィブリノゲン値を測定して適応を決める
- 予防的投与の適応：凝固因子欠乏による出血傾向のある患者の観血的処置時のみ

<投与にあたって>

投与量 → 凝固因子活性の20~30%上昇に必要なFFP量 → 8~12ml/kg
 (例) 体重50kgの患者 → 400~600ml
 (約5~7単位：FFP1単位は80ml)

<不適切な使用例>

- 循環血漿量減少の改善と補充 (人工膠質液あるいは等張アルブミン製剤の適応)
- 蛋白質源としての栄養補給 ○ 創傷治療の促進

<使用目的>

膠質浸透圧の改善・循環血漿量の是正

<適 応>

○ 等張アルブミン

出血性ショック、人工心肺を用いる心臓手術、血行動態が不安定な血液透析時、治療的血漿交換療法、重症熱傷、循環血漿量の著明な減少

○ 高張アルブミン

難治性腹水を伴う肝硬変・大量の腹水穿刺時、難治性の浮腫 肺水腫を伴うネフローゼ症候群、低蛋白血症による肺水腫・著明な浮腫

<投与にあたって>

投与前に必要性を明確に把握し、投与量を算出

投与後の目標血清アルブミン濃度 → 急性：3.0 g/dl以上、慢性：2.5 g/dl以上

総投与量 (g) → (アルブミン濃度の期待値 - 実測値) × 循環血漿量 × 2.5

※ 循環血漿量：0.4 (dl/kg) × 体重 (kg)

病態により2~3日で分割投与を考慮

<不適切な使用例>

- 蛋白質源としての栄養補給
- 単なる血清アルブミン濃度の維持
- 脳虚血発作・くも膜下出血後の血管攣縮
- 末期患者への投与

(参考) アルブミン補充総量早見表 (単位：g)

アルブミン 上昇期待値 (g/dl)	体重 (kg)	40	45	50	55	60	65	70	75	80
0.2		8	9	10	11	12	13	14	15	16
0.4		16	18	20	22	24	26	28	30	32
0.6		24	27	30	33	36	39	42	45	48
0.8		32	36	40	44	48	52	56	60	64
1.0		40	45	50	55	60	65	70	75	80
1.2		48	54	60	66	72	78	84	90	96
1.4		56	63	70	77	84	91	98	105	112